

## 令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

### 1 本年度「教育のキーワード」

姿勢 3C【Chance, Challenge, Change】

場面 T（時間管理）・A（あいさつ）・G（合唱）

- ◇ 未来を創造する生徒たち～Challenge、認め合い、支え合い～「人間関係形成能力」を育む
- ◇ 「何を」「どのように」を考えると「何のために」を学校軸に
- ◇ 「目標」めざし「最低基準」を明確にしてスタート

### 2 本年度「経営の重点」

- 1 未来を創造する生徒の育成を目指した教育課程
- 2 豊かな心の育成を目指し、厳しさの中にも温かみのある生徒指導
- 3 日常実践に根ざした学び合う研修活動の充実
- 4 教育環境の整備充実と活動実践をふまえた有効的活用
- 5 家庭や地域との有機的な連携を密にした教育の推進
- 6 教職員がやりがいを感じ、元気に教育活動に取り組むことができる働き方改革

### 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
①教育課程・学習指導	・指導計画、評価計画等の実施状況	A	授業初回で行うオリエンテーションの充実を図り、授業内容や評価についてわかりやすく説明をする。共通理解のもと適切な評価となるよう研修を継続する。
	・授業の工夫	B	生徒が「わかる、できる、楽しい」授業であると実感できるよう、今後も各教科において指導の工夫を継続する。 ICT機器の導入により、教育的効果は上がっている。今後、タブレットも導入され、より一層の教育効果を図るために、教師側の研修の充実を図る必要がある。
	・道徳教育及び総合的な学習の時間	A	職業に関する学習を中心に、地域や郷土にも目を向けた総合的な学習の時間では、職場見学や職場体験を行い充実した取組を行った。今後も限られた時間の中で、キャリア教育をさらに意識した活動になるよう工夫が必要である。
		A	生徒に「本物に触れる」感動を与えるための工夫を教職員一丸となり実施することができた。今後も、このような機会を生徒に与え、視野を広げることができるよう努力を継続する必要がある。 今年度より「特別の教科 道徳」全面実施を受け、道徳の時間の充実を図るため、教科書の内容に沿った教材の充実や精選を図った。今後も発達段階に応じて、系統的・計画的に道徳の時間を実施する。
・学習指導の工夫 (家庭学習の定着に向けて)	A	研修会や各教科会で目標の確認・設定を常に見直して、より適正な評価・評定に努める。生徒・保護者へ評価について分かりやすく伝え、学習意欲の向上につながるよう工夫改善を行う。	
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	ICT機器の導入・タブレットの導入はとても良い試みだと思います。今後もより一層、これらの機器を活用して生徒用達の学力向上を図っていただきたい。	
A	A		

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
②生徒指導	・豊かな人間関係づくりや基本的な生活習慣の定着に向けた指導の状況	A	一人ひとりを大切にし、お互いに支え合い高め合える集団づくりを意識しながら、学年・学級づくりを行っている。また、基本的な生活習慣の確立に向け、情報交換と共通理解を図りながら、場面に応じた指導を今後も継続する。
	・教育相談体制の整備状況	A	今年度も相談日の時間確保を心がけた。今後も時間の確保と教職員間及び、スクールカウンセラーや相談支援パートナーとの情報交換を図り、日常的な生徒との相談体制を整え、また機能させていくことが大切である。
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	将来、社会に出たときに必要な人間関係の構築の仕方や基本的な生活習慣の確立に向けた手立てについて、より一層のご指導をいただきたい。	
A	A		

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
③進路指導	・進路指導体制の整備状況	A	1年生からの発達段階を考慮した段階的な進路指導を行い、進学という視点ではなく、進路という視点で指導をする必要がある。 3年生については、今後も個に応じた進路指導を行っていくことが大切である。
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	進路指導については、大事な進路選択なので学校と親、本人の三者が平日頃から話し合いを持てるような機会の設定、ご指導を行っていただきたい。	
A	A		

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
④組織運営	・学校の明確な運営と責任体制の整備状況	A	教職員の共通理解のもと、一人ひとりが役割を果たし、各組織が連携して業務を進めることができた。 今後も、生徒数の減少により、教職員の数も減少するので、現在の校務組織を柔軟に検討していく必要がある。
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	学校規模が年々小さくなり、先生方の数も少なくなっている中での学校運営、ありがとうございます。大変な時代ですが、よろしく願いたします。	
A	A		

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
⑤安全管理	・教職員及び生徒の安全対応能力の向上を図るための取組	A	年2回の避難訓練を行った。特に、秋の避難訓練では、緊急時における通報の模擬体験を行った。今後も生徒や教職員全体の危機管理意識向上を図る取組の工夫を行っていく。
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	生徒に対してだけでなく、先生方も危機管理意識の向上を図る取組を今後も工夫して継続していただきたいと思えます。避難訓練はとても大事な事です。より実践的な取組を期待します。	
A	A		

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
⑥保護者・地域との連携	・保護者や地域との連携の状況	A	ホームページを活用し、リアルタイムで学校情報を提供することができた。今後も、HP及び地域の回覧板に学校便りを回覧してもらい、情報発信の充実に努める。震災において緊急連絡の必要性を実感し、昨年度から緊急保護者メールをスタートし、緊急時の体制も整えることができた。また、保護者と三者懇談での交流や日頃の教育活動を通して、相談しやすい雰囲気醸成し、家庭との一層の連携を図ることができた。
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	様々な場面で学校と地域・保護者との連携を図る必要性を感じます。保護者と三者懇談の場だけでなく、学校だよりやホームページの充実により、中学校での様々な取組を発信し、地域に知ってもらえるようにしていただきたいです。	
A	A		

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
⑦施設設備	・学習、生活環境の充実	A	最新の教育機器を取り入れ、意欲的に授業に活用する努力を継続する。日常の設備の修理・改善などを迅速に関係機関に要請し、教育環境を整備することが大切である。
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	学習環境に関しては、タブレット導入など、現代の子供たちが得意とする機器を使用し知識を身に付けることができている。今後も新しい教育機器を取り入れて活用していただきたい。しかし、生活環境に関しては、校舎等、老朽化が進んでいるので、関係機関に要請し、修理・改善を迅速にしていきたい。	
A	A		

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
⑧ その他	・朝読書の取り組み	A	朝読書が定着し、落ち着いた雰囲気の中、豊かな心を醸成させ、スムーズな授業の導入ができています。今後も継続し、読書に対する楽しさや喜びなどを高められるようにする。
学校関係者評価		学校関係者評価委員による意見	
自己評価の適切さ	改善策の適切さ	今後も朝読書を継続し、想像力豊かな生徒を育成してほしい。	
A	A		